

D-9 近郊建売住宅の住まい方について (その2 だんらん室における接客行為)  
○久保 加津代 (香蘭女子短大・精勤) 坂本 夕子 (近畿大女子短大)  
岡 俊江 (九大) 井上 洋子 (精華女子短大)

目的 その1に述べた目的のうち、本報ではだんらん室における接客行為の実態を分析報告する。

方法 その1のとおり。

結果 1. だんらん室の位置は8割以上が南面洋間だが、D.K.や他の和室をだんらん室にしているものもある。

2. だんらん室をだんらん行為のみに利用しているものは14%しかなく、接客を兼用しているものが60%もみられる。

3. だんらん室はだんらんとともに接客の場とするのがよいというものが多い。親しい人だけはだんらん室に招き入れてもよいというものまで含めると9割がだんらん室での接客行為を積極的にうけとめている。

4 接客の内容ごとに使われる部屋は異なり、宿泊客と仕事のうちあわせ、麻雀、碁・将棋などの客は座敷・世間話、親戚・知人などが来るではだんらん室を使うものが多い。

5 接客に際し、座敷・だんらん室を使いわけると、一定の基準がみられる。具体的には宿泊の有無・親しさ・あらたまり度などである。

座敷のあるプランでも接客行為の多くはだんらん室で行なわれており、だんらん室と座敷との使いわけに一定の基準がみられること、居住者の評価も積極的であることなどがわかる。まだ未検討の点もあるが、以上から接客行為をも想定しただんらん室の確立がのぞまれる。